

## 引用文献

- 1) 広瀬可恒監修『日本酪農の歩み』平成10年、p.19.
- 2) 岸 康彦『食と農の戦後史』1996、p.104.
- 3) 農業と経済編集委員会編『図で見る昭和農業史』平成元年、p.102.
- 4) 前掲『昭和農業史』pp.14～15.
- 5) 前掲『日本酪農の歩み』p.17.
- 6) 農林省畜産局編『畜産発達史 本編』昭和41年、p.34.
- 7) 前掲『日本酪農の歩み』p.18.
- 8) 前掲『畜産発達史 本編』pp.31～32.
- 9) 前掲『畜産発達史 本編』pp.36～37.
- 10) 前掲『日本酪農の歩み』p.313.
- 11) 前掲『畜産発達史 本編』pp.38～39.
- 12) 前掲『日本酪農の歩み』p.34.
- 13) 前掲『畜産発達史 本編』pp.125～126.
- 14) 前掲『日本酪農の歩み』p.215.
- 15) 農林水産省『農林水産統計表』
- 16) 岡山県史編纂委員会編『岡山県史 第13巻 現代Ⅰ』昭和59年、pp.310～312.
- 17) 前掲『岡山県畜産史』pp.95～96.
- 18) 前掲『岡山県史 第13巻 現代Ⅰ』pp.300～302.
- 19) 前掲『岡山県畜産史』pp.107～109.
- 20) 前掲『岡山県史 第13巻 現代Ⅰ』pp.516～520.
- 21) 川上村史編纂委員会編『川上村史』昭和55年、pp.617～618.
- 22) 前掲『岡山県畜産史』p.204.
- 23) 前掲『岡山県畜産史』pp.263～264.
- 24) 岡山県『蒜山原土地利用基礎調査報告書』昭和28年.
- 25) 八束村史編纂委員会編『八束村史』昭和57年、p.486.
- 26) 岡山県畜産課『蒜山地区酪農振興調査報告書』昭和28年.
- 27) 前掲『岡山県畜産史』pp.211～212、224.
- 28) 昭和28年6月28日付山陽新聞.
- 29) 前掲『岡山県畜産史』pp.265～266.
- 30) 前掲『岡山県畜産史』p.292.
- 31) 岡山県『津山地区高度集約酪農振興計画』昭和29年.
- 32) 岡山県畜産研究会『岡山畜産便り』昭和29年8月号、p.3.
- 33) 前掲『岡山県畜産史』p.293.
- 34) 前掲『岡山県畜産史』p.266.
- 35) 前掲『岡山県畜産史』pp.266～268、270～274.

- 36) 前掲『岡山県畜産史』p.268.
- 37) 前掲『岡山県畜産史』p.300.
- 38) 前掲『岡山県畜産史』p.318.
- 39) 前掲『岡山県畜産史』p.267.
- 40) 美作集約酪農地域振興対策室『美作集約酪農地域振興対策資料』昭和31年.
- 41) 前掲『岡山県畜産史』p.274.
- 42) 前掲『岡山県畜産史』p.276.
- 43) 前掲『岡山県畜産史』pp.276～287.
- 44) 前掲『岡山県畜産史』p.1007.
- 45) 前掲『岡山県畜産史』pp.1014～1015.
- 46) 農林省中国四国農政局『美作地域大規模草地改良地区管理利用効率化促進調査』昭和41年.
- 47) 前掲『岡山県畜産史』p.1022.
- 48) 農林省中国四国農政局『蒜山地域草地等効率利用促進プロジェクト調査報告書』（添付資料）昭和53年、pp.1～27.
- 49) 前掲『岡山県畜産史』p.254、261.
- 50) 昭和38年8月14日付山陽新聞.
- 51) 前掲『岡山県史 第13巻 現代I』pp.561～562.
- 52) 前掲『岡山県畜産史』pp.226～227.
- 53) 前掲『日本酪農の歩み』p.21.
- 54) 前掲『日本酪農の歩み』p.35.
- 55) 前掲『日本酪農の歩み』p.56、76.
- 56) 福田稔・目瀬守男共編著『岡山県農業論』昭和60年、pp.151～153
- 57) 農水省中国四国農政局『岡山農林水産統計年報』（平成9～10年）、pp.2～5.
- 58) 前掲『八束村史』pp.485～486.
- 59) 前掲『岡山畜産便り』昭和28年5月号、pp.17～18. 昭和29年5月号、pp.4～5.
- 60) 二川村史刊行会『二川村史』昭和38年、pp.511～512、584.
- 61) 岡山県『岡山県ジャージー牛10年の歩み』（蒜山地域）昭和38年、pp.9～11.
- 62) 昭和31年11月8日付山陽新聞.
- 63) 前掲『川上村史』p.621.
- 64) 岡山県戦後開拓史編纂委員会『岡山県戦後開拓史』昭和53年、p.499.
- 65) 三秋尚「ジャージー種乳牛導入農家の経営基礎調査」『岡山畜産便り』昭和31年3月号、pp.4～16.
- 66) 浅羽昌次『蒜山地区ジャージー酪農の歩み』平成3年、p.14.
- 67) 前掲『岡山県畜産史』p.301.
- 68) 前掲『川上村史』p.625.
- 69) 蒜山酪農農業協同組合『平成12年度業務報告書』平成13年12月.
- 70) 岡山県真庭地方振興局『ひるぜんジャージー酪農』昭和61年、p.3.

- 71) ホクラク農業協同組合『ホクラク30年史』昭和53年、p.174.  
同上『ホクラク50年史』平成12年、p.158.
- 72) 蒜山地域のジャージー酪農を考える会（真庭振興局）『職員研究グループ活動実績報告書』昭和62年、p.4.
- 73) 前掲『日本酪農の歩み』p.217.
- 74) 前掲『八束村史』p.503.
- 75) 前掲『岡山県畜産史』p.197.
- 76) 前掲『川上村史』p.634.
- 77) 前掲『岡山県畜産史』pp.264～265.
- 78) 前掲『八束村史』p.507.
- 79) 前掲『ホクラク30年史』pp.88～97.
- 80) 前掲『岡山県畜産史』p.217.
- 81) 前掲『岡山県畜産史』pp.309～310.
- 82) 前掲『ホクラク30年史』pp.118～120.
- 83) 前掲『ホクラク30年史』pp.131～132.
- 84) 前掲『川上村史』p.638～640.
- 85) 蒜山酪農農業協同組合『昭和35年度、同40年度、同45年度通常総会議案』昭和37年4月、同41年4月、同46年4月.
- 86) 前掲『ホクラク30年史』p.122～125.
- 87) 前掲『ホクラク50年史』pp.72～74.
- 88) 蒜山酪農農業協同組合『昭和51年度、同60年度、平成7年度、同12年度業務報告書』昭和52年4月、同61年4月、平成8年4月、同13年6月.
- 89) 岡山県酪農試験場蒜山分場『蒜山地区ジャージー酪農5年の歩み』昭和35年.
- 90) 前掲『美作地域大規模草地改良地区管理利用効率化促進調査』p.61.
- 91) 湯原町『第4次酪農近代化計画』
- 92) 蒜山酪農農業協同組合調べ
- 93) 湯原町『酪農・肉用牛生産近代化計画（昭和60年度および平成8年度）』
- 94) 前掲『岡山県ジャージー牛10年の歩み』pp.21～22.
- 95) 宮本憲一・遠藤宏一郎編著『地域経営と内発的發展』1998年、p.50.
- 96) 前掲『川上村史』pp.625～626.
- 97) 前掲『ジャージー種乳牛導入農家の経営基礎調査』p.16～17.
- 98) 堀尾房造『酪農の展開と飼料経済』昭和59年、pp.22～23.
- 99) 堀尾房造『前掲書』p.29.
- 100) 前掲『岡山県ジャージー牛10年の歩み』昭和38年、p.20.
- 101) 昭和38年4月20日付山陽新聞.
- 102) 堀尾房造『前掲書』p.24.
- 103) 堀尾房造『前掲書』pp.27～28.

- 104) 堀尾房造『前掲書』pp.32～33.
- 105) 堀尾房造『前掲書』p.35.
- 106) 三秋尚「酪農経営の発展と公共草地」『畜産の研究』Vol.34、No 8、pp.1103～1104、1980.
- 107) 佐伯尚美・生源寺真一編著『酪農生産の基礎構造』平成7年、p.18.
- 108) 前掲『川上村史』pp.611～612.
- 109) 農水省『1950年農林業センサス』
- 110) 前掲『岡山県畜産史』pp.1029～1031.
- 111) 蒜山川上農業協同組合『川上村農協30年の歩み』昭和57年、p.24.
- 112) 三秋尚「岡山県のジャージー種乳牛飼養農家の飼料作状況」『畜産の研究』Vol.11、No 3、pp.440～444、1957.
- 113) 牧野勉『根性百姓に実践』平成元年、p.140.
- 114) 前掲『蒜山地区ジャージー酪農の歩み』p.11、84.
- 115) 橋本 精・多田 確・木本 肇・坂尾圭次・三宅律太・三浦友久・栗山光春「農業構造改善のための技術確定調査研究〔酪農（ジャージー）経営実態調査〕『岡山県酪農試験場報告』第6号、pp.129～144、1968.
- 116) 前掲『蒜山地区ジャージー酪農の歩み』p.95.
- 117) 岡山県畜産会『各年度酪農経営コンサルテーション調査表』および『酪農経営診断報告書』.
- 118) 中央畜産会『経営診断のための畜産会計と経営分析の標準体系形成』平成12年、p.6.
- 119) 中央畜産会『酪農経営改善指導指標』1990、pp.23～83.
- 120) 前掲『岡山県ジャージー牛10年の歩み』pp.11～12.
- 121) 日本ジャージー登録協会『ジャージー飼養の実態調査報告書』昭和59年、p.49.
- 122) 前掲『ジャージー飼養の実態調査報告書』p.53.
- 123) 中央畜産会『先進的畜産経営の動向―酪農経営（平成13年調査結果）』平成14年、p.8.
- 124) 前掲『日本酪農の歩み』p.163.
- 125) 蒜山酪農農業協同組合『平成11年度業務報告書』平成12年6月、p.66.
- 126) 中央畜産会『草地自給飼料百年史』昭和51年、pp.626～635.
- 127) 前掲『蒜山地区ジャージー酪農の歩み』pp.11～12.
- 128) 川上村村長・正富毅からの私信（平成13年1月）.
- 129) 前掲『岡山県畜産史』p.1011.
- 130) 昭和31年11月12日付山陽新聞.
- 131) 前掲『草地自給飼料百年史』p.644.
- 132) 三秋尚「傾斜地の牧草栽培とその実際（1）」『牧草と園芸』Vol.8、No 5、pp.2～6、昭和35年.
- 133) 前掲『二川村史』pp.405～408.
- 134) 八束村農業協同組合『昭和47年度通常総会議案』昭和47年5月.
- 135) 前掲『蒜山地域草地等効率利用促進プロジェクト調査報告書』pp.30～39.
- 136) 前掲『美作地域大規模草地改良地区管理利用効率化促進調査』pp.22～23.

- 137) 前掲『美作地域大規模草地改良区管理利用効率化促進調査』p.43.
- 138) 三秋 尚「酪農経営の発展と公共草地」『畜産の研究』Vol.34、No 9、pp.1107～1109.1980.
- 139) ANDREVOISIN『Grass Productivity』1961、pp.131～134.
- 140) M. H. キーニイ (市川清水訳)『酪農家キーニイの牛飼いの哲学』昭和29年、前扉.
- 141) 日野水一郎『アルペン酪農をめざして』昭和39年、pp.142～147.
- 142) 日本草地協会『草地管理指標－農林水産省畜産局－』昭和56年、p.313.
- 143) 八束村農業協同組合理事会提案『ケヤキ団地哺育育成事業の必要性について』昭和47年4月18日.
- 144) 八束村農業協同組合『昭和47年度および同48年度通常総会議案』昭和47年5月、同48年5月.
- 145) 岡山県真庭地方振興局『草地開発関係事業実施一覧表』平成7年.
- 146) 蒜山酪農農業協同組合『平成元年度業務報告書』平成2年4月.
- 147) 栗木隆吉・片岡博行「ジャージー種去勢肥育牛における産肉及び脂肪酸組成の特性について」『岡山総畜セ研報』12、pp.1～4、2001.
- 148) 栗木隆吉・泉本勝利「蒜山地域におけるジャージー種雌牛の飼育状況と産肉特性」『岡大農学研報告』87、pp.169～173、1998.
- 149) 宇佐美繁「有機農業の展開と産直産地の到達点」『農業と経済』9月増刊号、Vol.65、No.11、pp.42～51、1999.
- 150) 前掲『岡山県畜産史』pp.191～192、215.
- 151) 前掲『岡山県畜産史』p.378.
- 152) 前掲『ホクラク30年史』p.205～206.
- 153) 前掲『食と農の戦後史』pp.30～31.
- 154) 前掲『岡山県ジャージー牛10年の歩み』p.14.
- 155) 蒜山酪農農業協同組合『昭和45年度通常総会議案』昭和46年4月.
- 156) 同上『昭和46年度通常総会議案』昭和47年4月.
- 157) 同上『昭和58年度業務報告書』昭和59年4月.
- 158) 同上『昭和59年度業務報告書』昭和60年4月.
- 159) 同上『昭和61年度業務報告書』昭和62年4月.
- 160) 同上『昭和60年度業務報告書』昭和61年4月.
- 161) 同上『昭和62年度業務報告書』昭和63年4月.
- 162) 同上『平成2年度業務報告書』平成3年4月.
- 163) 同上『乳製品製造施設竣工式資料』平成2年7月.
- 164) 同上『平成7年度業務報告書』平成8年4月.
- 165) 同上『平成6年度業務報告書』平成7年4月.
- 166) 同上『昭和38年度通常総会議案』昭和39年4月.
- 167) 同上『平成14年度業務報告書』平成15年6月.
- 168) 同上『平成13年度業務報告書』平成14年6月.
- 169) 同上『昭和31、32年度通常総会議案』昭和32年4月、同33年4月.

- 170) 『蒜山酪農農業協同組合と川上村、八束村両農業協同組合との事業協定書』昭和36年9月8日。
- 171) 蒜山酪農農業協同組合『昭和36年度通常総会議案』昭和37年4月。
- 172) 同上『昭和37年度通常総会議案』昭和38年4月。
- 173) 同上『昭和50年度業務報告書』昭和51年4月。
- 174) 同上『昭和63年度業務報告書』平成1年4月。
- 175) 前掲『日本酪農の歩み』p.167。
- 176) 蒜山酪農農業協同組合『昭和49年度通常総会議案』昭和50年4月。
- 177) 同上『昭和55年度業務報告書』昭和54年4月。
- 178) 同上『平成4年度業務報告書』平成5年4月。
- 179) 同上『平成8年度業務報告書』平成9年6月。
- 180) ジャージー導入40周年記念事業実行委員会編集『ジャージー導入40周年記念誌』平成2年。
- 181) 前掲『岡山県畜産史』p.294。
- 182) 蒜山酪農農業協同組合『平成5年度業務報告書』平成6年4月。
- 183) 同上『昭和54年度業務報告書』昭和55年4月。
- 184) 同上『昭和56年度業務報告書』昭和57年4月。
- 185) 同上『平成7年度業務報告書』平成8年4月。
- 186) 前掲『ホクラク30年史』p.138。
- 187) 蒜山酪農農業協同組合『昭和51年度業務報告書』昭和52年4月。
- 188) 同上『平成3年度業務報告書』平成4年4月。
- 189) 同上『昭和41年度通常総会議案』昭和42年4月。
- 190) 同上『平成10年度業務報告書』平成11年6月。
- 191) 蒜山酪農農業協同組合所蔵『ジャージー酪農カイゼン事業全戸巡回調査指導報告書』発行年次不詳。
- 192) 秋山俊彦・黒岩力也・吉元和明・谷田重遠「蒜山地方におけるジャージー種飼養管理改善に関する研究－(1) ジャージー種飼養管理実態調査」『岡山総畜セ研報』14、pp.17～22、2003。
- 193) 為藤昇「飼料畑の肥培管理」『大山乳業農業協同組合便り』平成11年10月。
- 194) 農水省農林水産技術会議事務局編『日本飼養標準(乳牛)』(1999年版)平成11年、pp.97～98。
- 195) 自給飼料品質評価研究会編『粗飼料品質評価ガイドブック』平成13年、p.119。
- 196) 前掲『日本飼養標準(乳牛)』pp.66～71。
- 197) 日本草地学会編『草地科学実験・調査法』2004、pp.294～295。
- 198) 前掲『粗飼料品質評価ガイドブック』pp.77～78、105。
- 199) 前掲『日本飼養標準(乳牛)』p.39。
- 200) 前掲『日本飼養標準(乳牛)』p.15。
- 201) 農林水産省九州農業試験場『草地畜産技術マニュアル』1981、p.161。
- 202) 前掲『日本飼養標準(乳牛)』P. 95。
- 203) 前掲『日本酪農の歩み』p.285。
- 204) 前掲『ホクラク30年史』pp.133～136。

- 205) 前掲『岡山県ジャージー牛10年の歩み』pp.38～39、56.
- 206) 前掲『川上村史』pp.644～645.
- 207) 国民生活金融公庫総合研究所『中小企業経営状況調査』2003年版及び2004年版.
- 208) 岡山県『工業統計調査結果』平成14年.
- 209) 蒜山酪農農業協同組合『平成14年度業務報告書』平成15年6月.
- 210) 岡山県『hiemmy 岡山の旅』Vol.25.2004.
- 211) 保田茂「有機農業運動における新しい農業観の展開」祖田修・大原興太郎編著『現代日本の農業』1994、pp.279～292.
- 212) 松木洋一・永松美希「欧米と日本のオーガニックミルクの現状と展望（1）」『畜産の研究』vol.54、No1、pp.93～97、2000.
- 213) 永松美希「EUにおける有機農業の動向と基準・認証・表示問題」『農業と経済』9月号増刊、pp.131～140、1999.
- 214) 保田茂・小川華奈「有機食品の表示制度とJAS法制定」『農業と経済』9月号増刊、Vol.63、pp.82～91、1999.
- 215) 坂本定禱「岡山県における有機無農薬農産物の認証制度の実態と今後の方向」『農業と経済』9月号増刊、pp.100～106、1999.
- 216) 岡山県「おかやま有機無農薬農産物認定制度」『新・21世紀おかやま農林水産プラン』平成15年.
- 217) 松木洋一・松永美希望「世界の有機畜産と日本畜産の課題」農政ジャーナリストの会『揺れる畜産の進路』平成13年、p.72.
- 218) 古沢広裕透「農産物貿易・ビジネスにおける環境・社会的責任」『農業と経済』Vol.70、No4、pp.42～50、2004.
- 219) 大山利男『有機農業と畜産』（筑波ブックレット）2004.
- 220) 松永美希『EUの有機アグリフードシステム』2004、pp.220～221.
- 221) 同上、p.64.
- 222) 農林水産省畜産部草地整備推進室「牛を放そう」『農業と経済』Vol.70、No13、pp.27～32、2004.
- 223) 湯藤健治「北海道で放牧がなぜ衰退したか」松中照夫編著『放牧で牛乳生産を』2003年、p.14.
- 224) 久保田学「低投入型酪農経営と暮らし（4）」『畜産の研究』Vol.54、No11、pp.1162～1167、2000.
- 225) 袴田泰三「耕作放棄地の現状と対策」『農業と経済』Vol.70、No10、pp.14～20、2003.
- 226) 田代洋一「耕作放棄の要因と対策」『農業と経済』Vol.69、No10、pp.5～13、2003.
- 227) 千田雅之「放牧－粗放的利用－による中山間地域の農林地保全の可能性」『農業と経済』Vol.69、No10、pp.30～36、2003.
- 228) 小野洋「不作付水田における飼料イネ生産拡大の可能性」『農業と経済』Vol.69、No10、pp.2003.
- 229) 富岡晶雄「低投入・資源循環型農業の可能性」『農業と経済』Vol.69、No10、pp.48～53、2003.
- 230) 沼田真『自然保護という思想』1994、pp.61～68.
- 231) 松木洋一・永松美希「世界の有機畜産と日本畜産の課題」農政ジャーナリストの会編『揺れる畜

- 産の進路』平成13年、pp.78～82.
- 232) 農林水産省畜産部草地整備推進室「牛を放そう」『農業と経済』Vol.70、No13、pp.27～32、2004.
- 233) ㈱A X H U M (グリーン・ツーリズム研究会) 編『1997～1998年度酪農ツーリズム研究委員会報告書』1999年、pp.24～25、60～63、88～95.
- 234) 井上和衛・中村攻・宮崎猛・山崎光博『地域経営型グリーン・ツーリズム』1999年、pp.20～27.
- 235) 島田純「都市農村交流の推進方向」『農業と経済』Vol.67、No 7、pp.5～13、2001.
- 236) 農林水産省「平成16年度において講じようとする食料・農業・農村振興(第159回国会提出)」『平成15年度図説食料・農業・農村白書』末尾p.5.
- 237) 農林水産省農村振興局農村政策課「水とみどりの[美の里]プラン21」『農業と経済』Vol.70、No 1、pp.27～34、2004.
- 238) 環境省『平成16年度環境白書』p.153.
- 239) 山崎光博『グリーン・ツーリズムの現状と課題』(筑波ブックレット)2004年.
- 240) 佐藤誠「スローでグリーンなライフスタイル実現の特区を」『現代農業』2月増刊号、pp.108～111、2003.
- 241) 井上和衛・中村攻・宮崎猛『地域経営型グリーン・ツーリズム』1999、pp.55～56.
- 242) 農林水産省「平成15年度図説食料・農業・農村白書」p.233.
- 243) 平澤正夫『牛乳・狂牛病問題と雪印事件』2002、p.226.
- 244) 千賀千歌子「消費者が求める牛乳の質よ安全性」『畜産の研究』Vol.55、No 1、pp.25～30、2001.
- 245) 高田理「農協経営の新しい動向と課題」山本修編『日本農業の課題と展望』平成2年、pp.368～372.
- 246) 野村一正「農業六次産業化と先取りする山口・船方グループ」『現代農業』5月増刊号、pp.70～77、1997.
- 247) 納口るり子「地域農業の六次産業化と普及事業とどうとりくか」『農業と経済』Vol.67、No14、pp.21～28、2001.
- 248) 古沢広祐「農村から国際交流と農業観の変容」祖田修・大原興太郎編著『現代日本の農業観』1994、pp.230～237.
- 249) 木村伸男「グローバル時代のイノベーション」『農業と経済』1月号臨時増刊号、Vol.67、No 2、pp.41～50、2000.
- 250) 中央酪農会議・全国牛乳普及協会『国産ナチュラルチーズ図鑑』2000.
- 251) 岡山県中国酪農講習所条例(昭和28年8月定例議会付議案).
- 252) 前掲『岡山県畜産史』pp.191～192.
- 253) 前掲『岡山県畜産史』p.373.
- 254) 昭和38年8月14日付山陽新聞.
- 255) 昭和36年3月10日付山陽新聞.
- 256) 昭和36年9月19日付山陽新聞.
- 257) 昭和36年9月26日付山陽新聞.
- 258) 山下肅郎「ある農林部長のメモからー苦心惨憺中国四国酪農大の発起ー」『中国四国酪大20



年史』昭和60年.

- 259) 岡山県立酪農大学校要覧 (昭和38年度) .
- 260) 財団法人中国四国酪農大学校要覧 (平成15年) .
- 261) 中国四国酪農大学校『学園便り』平成元年2月.
- 262) 中国四国酪農大学校教務課資料.
- 263) 前掲『岡山県畜産史』p.261.
- 264) 中国四国酪農大学校『学園便り』No10、1978.
- 265) 同上『学園便り』平成7年2月.
- 266) 前掲『蒜山地区ジャージー酪農の歩み』p.32.
- 267) 前掲『蒜山地域草地等効率利用促進プロジェクト調査報告書』p.35.
- 268) 三秋尚「大学農場における農学教育と農場のあり方ー21世紀を臨む視点からの基本的考え方ー」『宮崎大学農場報告』第2号、pp.55~90、昭和61年.
- 269) 三秋尚「大学農場における畜産の教育・研究の現状と課題」『畜産の研究』Vol.41、No3、pp.353~358、No4、pp.75~482、1987.
- 270) 中国四国酪農大学校教務課資料.
- 271) 財団法人中国四国酪農大学校・オンカパリンガT A F F学院の教育と訓練における提携合意覚書 (1995年11月10日) .
- 272) 南オーストラリア酪農民協会・財団法人中国四国酪農大学校協定覚書 (2003年12月16日) .
- 273) 岡山県農林水産部畜産課『各年度畜産行政の概要』.
- 274) 財団法人酪農ヘルパー全国協会『酪農ヘルパー専門技術員養成研修施設案内』平成14年.
- 275) 中国四国酪農大学校『酪農ヘルパー養成研修受講者名簿』平成15年.
- 276) 前掲『岡山県畜産史』p.43.
- 277) 岡山県農政懇談会畜産特別部会『新しい観点に立った畜産基地づくり基本構想ー答申』昭和60年7月.
- 278) 岡山県酪農試験場報告 (昭和33~48年)、岡山県酪農試験場研究報告 (昭和49~平成1年)、岡山県畜産総合センター研究報告 (平成2年~15年)、及び前掲『岡山県畜産史』p.256~257による.